

平成28年6月24日 総合政策部

- 人口減少加速化（平成17-22年 ▲9千人→平成22-27年 ▲33千人）の主な要因は、自然動態の減少の大幅な拡大（平成17-22年 ▲5,611人→平成22-27年▲23,452人）。
 - 都道府県間人口移動における転出超過拡大（平成17-22年 ▲6,865人→平成22-27年 ▲8,675人）の主な要因は、北海道及び東北地方5県（福島県を除く。）からの転入超過の収束。
- ➡ 「とちぎ創生^{いちご}15戦略」の実効性を高めていくため、今後、国から公表される各統計結果の活用など、市町等とも連携の上で詳細な分析を行い、対策につなげていく。

1 栃木県の総人口（H27.10月1日時点、外国人を含む。）

- 総人口は、1,974,671人（全国18位・平成22年国勢調査では全国20位）
平成22年国勢調査から2期連続で減少し、平成12年国勢調査以降、初めて200万人を下回る。
- ※ 東京圏の人口は約3,612万6千人で、日本の総人口の4分の1以上（28.4%）を占める。
- 人口性比（女性人口100人に対する男性人口）は、98.8（全国6位）
全国平均の94.7を上回り、相対的に男性人口が多い傾向。

2 栃木県の人口動態

- 総人口は、平成22-27年において、約33千人減少（▲1.6%）
平成17-22年の人口減少数の約9千人を上回り、人口減少は加速化。
- ＜自然動態の動向（日本人）＞
- 平成22-27年の自然動態は、23,452人の減少
出生児数の減少及び死亡者数の増加により、平成17-22年の5,611人の減少を大きく上回る。
- 自然動態の減少の大幅な拡大が、人口減少加速化の主な要因
- ＜社会動態の動向（日本人）＞
- 平成22-27年の社会動態は、8,675人の転出超過
平成17-22年（▲6,865人）と比較して、北海道及び東北地方5県（福島県を除く。）からの転入超過の収束が転出超過拡大の要因。

3 栃木県内市町村別総人口

- 最も人口が多い市町は、宇都宮市（518,761人）
栃木県人口の4分の1以上を占め、人口集中は拡大（平17 24.9%→平22 25.5%→平27 26.3%）。
- 平成22-27年において、宇都宮市、小山市、さくら市及び壬生町（3市1町）は、人口が増加
- 平成17-22年の人口増減数と比較して、
 - ・宇都宮市、小山市及びさくら市の人口増加は緩和
 - ・壬生町は人口減少から人口増加に転換
 - ・那須塩原市、下野市、上三川町及び那須町は、人口増加から人口減少に転換
 - ・足利市及び佐野市の人口減少は緩和の一方、栃木市などの7市8町の人口減少は加速化